



「北白川だより」 学校評価 臨時号

令和2年9月4日
京都市立北白川小学校
校長 藤林 弘之

『学び合い 高め合い 夢に向かって進む 北白川の子』
～目標の実現に向け努力する意欲・態度と問題解決能力を培う～



平素は本校教育活動の推進のためにご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。
さて、保護者の皆様にはお忙しい中、夏休み前の学校評価にご協力いただき、ありがとうございました。学校評価は児童・保護者・教職員が共通の意識をもち、連携しながら教育活動を進めるために、それぞれの立場でこれまでの取組について見つめ直す手段の一つであり、その結果から見えてくる課題について分析し、よりよい教育の在り方について考えていきたいと思っております。
なお、以下の考察では、A群とB群で「できている」、C群とD群で「できていない」と大きく2つに分けて分析しています。

本号では7月に行いました学校評価アンケートの結果をお知らせします。表面には<学習面>、裏面には<生活面>を載せています。表のAは「よくできている」 Bは「だいたいできている」 Cは「あまりできていない」 Dは「できていない」を示しています。

【前期 学習面】

	児童	保護者				児童	保護者				教職員	教職員			
		A	B	C	D		A	B	C	D		A	B	C	D
①	がくしゅうのめあてがたっせいできている。	50.8%	40.3%	7.6%	1.4%	我が子は、学校で学んだことを身に付けている。	29.7%	64.0%	5.9%	0.3%	確かな学力が身に付くように授業を工夫して行っている。	22.2%	77.8%	0.0%	0.0%
②	せんせいやともだちのはなしをよくきいて、かんがえている。	58.2%	34.0%	6.5%	1.4%	我が子は、人の話をしっかりと聞いて考えることができている。	23.2%	59.5%	17.0%	0.3%	友だちや先生の話の話をしっかりと聞いて考える習慣をつけるように取り組んでいる。	38.9%	61.1%	0.0%	0.0%
③	じゅぎょうちゅうすすんでじぶんのかんがえをひょうげんしている。	40.5%	32.3%	20.4%	6.8%	我が子は、進んで自分の考えを話すことができている。	22.4%	56.9%	19.8%	0.8%	授業中、子ども達が進んで自分の考えを伝えるような授業づくりを心掛けている。	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%
④	よんだり、かいたり、けいさんしたりするちからがみについてている。	55.8%	31.7%	10.0%	2.4%	我が子には、基礎的な学力(読む・書く・計算する)が身に付いている。	31.3%	57.0%	10.5%	1.1%	基礎的な学力(読む・書く・計算する)が身に付くように取り組んでいる。	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%
⑤	いえでじぶんからしゅくだいやがくしゅうをしている。	52.3%	34.4%	10.3%	3.0%	我が子は、自分から家庭学習に取り組むことができている。	25.6%	43.9%	28.8%	1.7%	家庭学習の習慣が定着するような働きかけを行っている。	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%
⑥	すすんでどくしょをしている。	52.6%	27.9%	11.7%	7.9%	我が家では、本に親しむことができる環境を整えている。	32.6%	45.3%	19.3%	2.8%	読書の習慣が定着するような働きかけを行っている。	11.1%	72.2%	16.7%	0.0%
⑦	じぶんからすすんでうんどうをしている。	50.7%	26.6%	15.7%	7.0%	我が子は、進んで運動に取り組んでいる。	30.9%	38.0%	26.6%	4.5%	進んで運動できるように工夫したり、声をかけたりしている。	16.7%	61.1%	22.2%	0.0%

【②「せんせいやともだちのはなしをよくきいて、かんがえている。」】

児童の「できている」が約92%、保護者は約83%と、約10%の差がありました。学校での授業と、ご家庭でのリラックスした状況との違いがあるのかもしれませんが、また、児童とお家の方とで、求めているレベルに違いがあるのかもしれませんが。

授業では、担任も工夫をして取り組んではいますが、コロナ禍での話し合いに制限のある授業では、児童が受け身になりやすくなります。そのため、聞く必然性を生むような授業の工夫や、聞く視点をより明確にすること、共通点・相違点を意識して聞くように促すことなど、思考を深められるような授業づくりに一層取り組んでいきたいと考えます。

「聞く」ことは、相手を大切にすることでもあります。「なぜ？」と話をつなげたり、話した内容を確認したりすると、お子さまが話す過程で情報を整理したり思考したりすることができます。ご家庭でも意識していただけたらと思います。

【③「じゅぎょうちゅうすすんでじぶんのかんがえをひょうげんしている。」の項目より】

児童の「できていない」が、約27%と非常に高い結果でした。対話を大切に授業づくりをしていこうとスタートしたものの、コロナ禍で話し合い活動を十分に確保できなかったことが要因の1つであると考えられます。書くことで思考や表現をしたり、コロナ禍でのリスク軽減に努めた上で、工夫して交流をしたりしていくことも必要であると考えます。ご家庭でも意識的に話を聞いていただき、子どもたちが自分の考えを自分の言葉で伝える力を身につけられるよう、お力添えいただけたらと思います。

【⑤「いえでじぶんからしゅくだいやがくしゅうをしている。」の項目より】

「できている」が、児童の約87%に対し、保護者は約70%でした。お家の方にとっては、「もっと早くに始めてほしい」、「集中して取り組んでほしい」ということかもしれません。4、5月は臨時休業もあり、ご家庭で勉強する状況にご苦労もあったかと思います。その中でも、子どもたちの87%は自分から勉強できていると感じているようです。ご家庭での環境づくりや日々のお声かけ、ありがとうございます。

【⑦「じぶんからすすんでうんどうをしている。」の項目より】

コロナ禍の影響を大きく受けた項目の1つです。昨年度と比較しても下がっています。自粛期間があり、また学校でも遊び方に制限があり、思い切り遊べない環境でした。そして、マスクをして過ごす初めての夏を迎えました。まだまだ予断を許さない状況ですが、「3密を避ける」「手洗い」「マスクの着用(夏は熱中症予防のために外すこともあります)」を徹底しながらもできる運動を模索していけたらと思います。

保護者の皆様からいただきましたご意見についても教職員で共通理解を図るとともに、次回の「学校運営協議会理事会」でも話題にさせていただきます。お忙しい中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

【前期 生活面】

	児 童	A	B	C	D	保護者	A	B	C	D	教職員	A	B	C	D
①	じぶんからすすんであいさつをしている。	56.6%	34.7%	7.9%	0.8%	我が家では、進んで挨拶するように声かけをしている。	37.7%	57.2%	4.8%	0.3%	自分から進んで気持ちのよい挨拶ができるように働きかけている。	40.0%	50.0%	10.0%	0.0%
②	いえやがっこうのルールをまもっている。	43.8%	48.1%	7.8%	0.3%	我が家では、家や学校のルールを守るように働きかけている。	32.0%	63.7%	4.2%	0.0%	家や学校のルールを守る意識を高めるように取り組んでいる。	55.0%	45.0%	0.0%	0.0%
③	そうじやかたづけをきちんとしている。	43.0%	40.0%	15.1%	1.9%	我が家では、掃除や身の回りのかたづけを自分でするようにしている。	14.8%	48.0%	34.9%	2.3%	自分から進んで掃除や身の回りのかたづけをするように働きかけ、自らも実践している。	45.0%	55.0%	0.0%	0.0%
④	こまったことは、せんせいやかぞくにそうだんしている。	46.2%	33.4%	14.7%	5.7%	我が家では、子どもの話をしっかり聴くようにしている。	24.6%	66.0%	9.3%	0.0%	子ども達に向き合い、しっかりと話を聴くようにしている。	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
⑤	だれにたいしてもていねいなことばではなしている。	32.0%	45.5%	19.0%	3.5%	我が家では、丁寧な言葉づかいで話すように心掛けている。	11.9%	61.8%	24.6%	1.7%	誰に対しても丁寧な言葉遣いで話すよう指導するとともに、自らも実践している。	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%
⑥	にがてなことにもじぶんからとりくんでいる。	42.0%	33.6%	19.5%	4.9%	我が家では、苦手なことにも努力する姿勢を大切にしている。	23.2%	62.3%	14.4%	0.0%	子ども達が、苦手なことにも前向きに取り組めるような手立てを、常に意識して実践している。	26.3%	68.4%	5.3%	0.0%
⑦	じぶんのよいところがいえる。	39.4%	27.7%	20.4%	12.5%	我が家では、子どものよさを認め、伝えるようにしている。	34.6%	59.2%	6.2%	0.0%	子どものよさを認め、積極的に伝えるようにしている。	45.0%	45.0%	10.0%	0.0%

【③「そうじやかたづけをきちんとしている。」の項目より】

アンケートの対象が1～6年生と幅広いので一概には言えませんが、「できている」が児童の83%に対して、保護者は約63%と差が見られます。子どもたちにとっては、片づけてもらって当たり前であったり、してもらっていることに気付かなかったりするのかもしれませんが。教室に持ち主の現れない落し物があったりもします。物を大切にするとともに、学習環境を整えられるように学校でも声かけを続けていきます。ご家庭でも、少しずつ自分のことは自分でできるようによろしく願いいたします。

【④「こまったことは、せんせいやかぞくにそうだんしている。」の項目より】

児童の「できている」が約80%でした。5人に4人は相談できていることとなります。裏を返せば、5人に1人は相談できていないこととなります。大人(保護者、教職員)は、いつでも相談にのるつもりでも、実際は相談できずに悩んでいる子どもがいるのかもしれませんが。特に、学校では、コロナ禍での様々な制限や休み時間の減少もあり、一人一人と十分にコミュニケーションをとりにくい状況にあったことも考えられます。しかし、こういう時こそ、子どもたちの小さな変化やSOSを感じ取れるように、ご家庭と協力して取り組んでいきたいと考えています。

【⑥「にがてなことにもじぶんからとりくんでいる。」の項目より】

児童の「できている」が約76%、保護者は86%と10%の差が見られました。教職員は、ほぼ全員が意識して取り組んでいます。長期休業による学習の遅れを取り戻そうと、コマ数を増やして学習を進めています。そのため、子どもたちにとっては、まだまだ「やらされている」、「しないといけないからしている」のかもしれませんが。大人がさせたいことと、子どもがしたいことが違う時、どう前向きにさせるかについては、今回のアンケートの自由記述欄からたくさんヒントをいただきました。目を輝かせながら粘り強く取り組む子どもたちになるよう、今後も授業を工夫していきたいと思えます。

【⑦「じぶんのよいところがいえる。」の項目より】

今回のアンケートの生活面では、児童の結果が1番低かったです。昨年度のアンケートと比べても、約8%下がっています。コロナ禍で、他者と会ったり協働したりする機会が減ったため、個性を生かす場面が少なくなったことが要因の一つとして考えられます。今後、社会に出ていく中で、自分の「強み」に気付くことが重要だとも言われています。改めて、学校での協働的な学びやコミュニケーションの大切を感じました。ご家庭でも、自己肯定感を高めるような声かけをよろしくお願いいたします。

○今回のアンケートでは、保護者の皆さんに「お子さまが苦手なことに対して、根気強く取り組むために意識されていること」について書いていただきました。数多くの記述をありがとうございました。一部になりますが、まとめて紹介させていただきます。

- ・日々の努力やできたことを褒めたり、努力や挑戦を続けられるように励ましたりする。
- ・何に困っているかを聞いたり、(解決)方法を一緒に考えたり、なぜ大切かを説明したりする。
- ・否定的な言葉ではなく、肯定的な言葉で声かけをする。
- ・難しかったら、ハードルを下げたり、細かく分けたりしてスモールステップにする。
- ・無理な時は無理矢理にならないように時間をおいてからまた(何度も)声をかける。
- ・(少しずつでも)何度も取り組むようにする。(反復、継続)
- ・やる気がでるまで待つ。見守る。
- ・自分で(順番や計画、方法など)決めさせて、責任・主体性をもたせる。
- ・成果に喜びを感じるようにご褒美を渡す。
- ・できた時のイメージを共有する。
- ・何事も面白い面があることを伝え、それを見出して楽しめるように促す。
- ・好奇心がもてるように、義務としてさせるのではなく、興味をもたせるような工夫をする。
- ・大人も一緒に取り組んだり、喜んだりする。
- ・小さな成長や努力も見逃さないようにする。
- ・部屋に掲示したり、1人で集中できる場所をつくったりと環境を整える。

どの学年でも、共通して「励ます、応援する」「褒める」「根気強く声をかける」「説明する」など、ポジティブなコミュニケーションを大切にしているようでした。その一方で、何でも教える、やらせるのではなく、時には大人も一緒につきあったり、我慢して見守ったり、待ったりすることもされているようです。

また、子どもにとって頑張れる環境を整えること、無理にさせるのではなく自ら挑戦できるように、興味をもつための工夫すること、集中できるようにスモールステップにしたり、短時間にしたりして、それを何度も繰り返すこと等は、まさに学校の授業で大切にしていることと似ています。

評価や報酬は、結果よりも行動(努力)していることに対して行う方が効果的だそうです。何度失敗しても頑張る姿を認め、応援したいものです。学校生活でも、指導に生かしていきたいと思えます。